

岩田彩志（2009年度日本英語学会賞受賞）

この度は、拙著 *Locative Alternation: A Lexical-Constructional Approach* (2008, John Benjamins) に対して栄えある第一回日本英語学会賞を頂き、誠に有難うございます。まずは筑波大学の広瀬幸生氏を始めとする推薦者となってくださった方々、並びに選考委員会の先生方に感謝したいと思います。また振り返ってみれば、現在の自分の土台は間違いなく、筑波大学で学んだ時代に築かれたものです。安井稔先生と中右実先生を始めとする先生方、さらに多くの先輩・同輩・後輩にも感謝の言葉を述べたいと思います。

私は常々、”on English, in English（英語を研究対象として、英語で論文を書く）”をモットーとして研究を続けて来ました。このうち”in English”に関しては、現在では日本人研究者の論文が海外の雑誌に掲載されることはそれほど珍しいことではなくなり、私の他にも実践している方は大勢おられます。しかし更に”on English”も実践している方となると、それほど多くないと思います。私としてはこのことを秘かに誇りに思っていますが、それも元を辿れば、学部時代に耳にした「日本人の英語学研究とは、英語を良く理解することにつながるような研究でなければならない」という安井稔先生の言葉に行きつくのです。あの頃から長い時間が経っていますが、やはり自分の原点はそこにあると胸を張って言えます。

Locative alternation に本格的に興味を持ったのは 1992 年頃です。その後考えがどんどんと膨らんで行き、これはもう本にするしかない、と決心するに至りましたが、それから更に大分時間が経って漸く発刊にこぎつけました。その間に自分の理論的なスタンスも変わって行き、語彙・構文アプローチという独自の理論を名乗ることとなりました。

今後とも自分の独自の路線を追及して行きますが、そうすることにより、海外の学者からは「こんな面白いことを言う日本人がいるのか。日本人もやるな」、日本人研究者からは「日本人でもこれだけやれるのか。よし自分も！」と思ってもらえるような存在になりたいと思っています。